



東京八王子ビートレインズ「開幕戦」

スポーツボランティアプログラム

プロバスケットボールチーム
東京八王子ビートレインズ

「開幕戦」

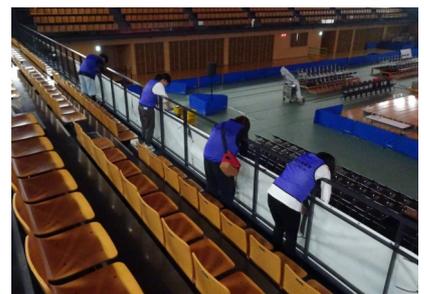
報告

2018/09/28



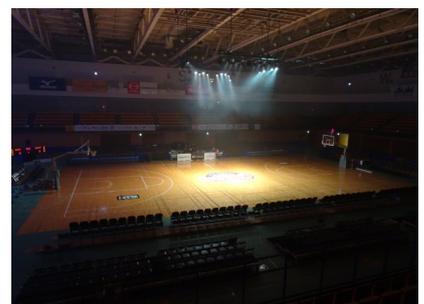
1階の観客席を設置している様子

1階席は、ひな壇を組み立てて設置しました。一つひとつの板が重いため、運ぶだけでも一苦労です。コートを囲むように四面の観客席を設置し終えた頃には、みんな汗だくになっていました。



スポンサー企業の旗を付けている様子

2階席の最前面にはスポンサー企業の旗を掲示しました。一つひとつの旗がコートからしっかりと見える様に調整し、結束バンドで柵に固定しました。



観客席の設置完了！

9月28日（金）、エスフォルタアリーナ八王子にて、プロバスケットボールチーム「東京八王子ビートレインズ」の開幕戦が行われました。「東京八王子ビートレインズ」は、昨季B2・B3リーグの入れ替え戦で見事に勝利し、今季初めてB2リーグに挑戦します。初めてのB2リーグ挑戦、そしてホームでの開幕戦ということで、多くの方々が来場し、大きな声援が送られていました。

本学からは、スポーツボランティアプログラムの3年目（リーダー）の学生が3人、2年目（サブリーダー）の学生が2人、1年目の学生が3人の計8人が運営ボランティアとして参加しました。

・活動内容（午前）

午前中は、主に会場内の準備・設営を行いました。首都大生以外にもバスケットボール部の高校生などが参加していました。

初めに取り組んだのは、1階の観客席の設営です。2階席は常設ですが、1階席は、コートの周りにひな壇を並べて設置します。

まず、高さの異なる木材を台板の四隅にはめてひな壇を作ります。1階席は、最大で3段まで作りました。台板は1人では持てないほど重く、台車から運び出すだけでも一苦労でした。ひな壇の数が計画と合わず、他の場所から移動させるといったトラブルもありましたが、みんなで汗をかきながら、一生懸命に設営しました。

組み立てて設置したひな壇の上には、パイプ椅子を並べました。観客席ができると、会場の臨場感がグッと増します。学生たちは、「今日はどのくらいの数のお客さんが入るのだろう」と期待に胸を躍らせながら、自分たちが設置した観客席を見つめていました。

次は、2階席の最前面にスポンサー企業のバンナーと呼ばれる旗を設置しました。スポンサー企業からの支援によってチームが成り立っています。重要な旗だからこそ、コートから良く見える様に調整しながら、丁寧に取り付けました。

午前中には、1時間ほど選手の練習の時間がありました。この時は、チームスタッフ以外会場内に入ることができないため、高校生と一緒に会場外で当日配布するパンフレットやチラシのセッティングを行いました。入れ忘れが無いようにお互い確認し合いながら袋詰めし、3000セット以上を完成させました。

ここで一旦、お昼休みです。この日はとても天気が良かったため、みんなで外でお弁当を食べました。

・活動内容（午後）

午後は、試合開始に備えて、備品の準備などを行いました。例えば、燃えるごみやペットボトルを捨てるゴミ箱の作成です。ゴミ箱の作成キットのようなものがあり、段ボールを説明書通りに組み立てていくと、ゴミ箱ができます。分別ができるように、「燃えるゴミ」「ペットボトル」「ビン・カン」のそれぞれの用途に合わせて、ゴミ箱をたくさん組み立てました。完成したものは、会場内の1階席・2階席や会場外のロビー、入場口付近等の各所に設置しました。

さらに、アウェイの選手控室にペットボトルの水を運んだり、各座席に番号を貼ったりして、入場開始に備えました。

観客の入場開始前には、会場設営の最後の仕上げとして、コートのすぐ近くにスポンサー企業の看板を設置しました。会場の隅で組み立ててから、コートに入って設置するのですが、そのすぐ後ろでは選手たちがウォーミングアップをしています。すぐ近くでボールが弾む音を聞いたり、コートに漂う熱を感じるたりすることで、試合開始前の特別な雰囲気に触れることができた貴重な体験でした。

・入場開始

観客の入場開始直前には、首都大生全員でチケットもぎり係のレクチャーを受けました。チケットの種類が多様で、従来の紙チケット以外にも、スマチケと呼ばれる電子チケットなどがあります。多くのお客さんが詰めかけている中でも、落ち着いて対応ができるように、チームのスタッフから、それぞれのチケットの対応方法や配布するもの等を教えていただきました。

いよいよ入場開始です。事前にレクチャーを受けていたことで、学生たちはスムーズにチケットもぎりを行うことができました。

この日は、開幕戦ということで、来場者全員に開幕記念Tシャツを配布しました。入場口でチケット確認を終えた方にTシャツを手渡すので

が学生たちは、来場者一人ひとりに、「ぜひこれを見て応援してください！」「楽しんでください！」「一緒に応援しましょう！」などと、一言添えてTシャツを渡していました。

また、チケットをもぎる際に、再入場の案内をするのですが、ある学生は、大人の方には、「半券がないと再入場できないのでお気を付けてください」と、小さい子どもには、「これがないともう一回中に入ることができなくなるから気を付けてね」と言葉を変えて伝えていました。ただ機械的に役割をこなすのではなく、相手のことを考え、自分なりに工夫しながら来場者と接している学生の姿を見て、とても頼もしく感じました。

これから始まる試合に先駆けて、会場の入り口から学生みんなでこの試合を盛り上げることができたと感じています。



チケットもぎりをしている学生の様子

・試合開始

試合が始まると、入場者が徐々に減ってきたため、学生たちは、交代で休憩を取りながら試合を観戦しました。初めてプロバスケットボールの試合を観る学生も多く、選手たちの激しいプレーや華麗なシュートを間近で観て、興奮した様子でした。また、ファンの方々の大きな声援や楽しそうに観戦する様子も見ることができ、自分たちの活動のやりがいを感じられたようです。

ハーフタイム以降は、抽選会のブースを首都大生が担当し、運営しました。当選番号を掲示すると子どもたちがブースの前に集まり、入場時に配られた自分の抽選番号を必死に確認していました。学生たちは、子どもたちと一緒に番号を探してあげるなど、楽しく交流していました。特賞

や1等を当てた方がいらっしゃった時には、みんなで拍手をし、その場を盛り上げました。

・振り返り

活動後には、首都大生全員で集まり、今回の活動の中で困ったことやどうすれば良かったかなどの改善策を出し合いながら、振り返りを行いました。例えば、「会場の座席を把握しておらず、車椅子の方がいらした時にうまく案内することができなかった。座席表が入口にあるといいと思う」、「会場設営時に、会場図（完成図）があるところにどれくらいものを運ばばいいかわかりやすい」など、ボランティアとして、直接来場者に接していたからこそ気付いたことがたくさんありました。

今後の活動に向けて、今回気付いた点をまとめて、生かしていくと共に、「東京八王子ビートルズ」をさらに盛り上げていきたいと思っています。

～参加した学生の感想～

※学生の感想の中から一部を紹介します

・「Tシャツの渡し方1つで相手への印象が変わってくるので、お互いが気持ち良く楽しむためにも、目を見て一言添えるといったほんのわずかな違いだけでも注意するようにした。試合を観たお客さんを笑顔でお送りすることができた」

・「トレインズの活動は2回目の参加でしたが、以前とは活動内容が違ったので新鮮な気持ちで楽しめました」

・「前からトレインズのボランティアが気になっていましたが、今回初めて参加できました。活動内容について、誰と連携をとったら良いのか、判断して活動していきたいです」

・「お客さんに快く楽しんでもらえるように、自分も楽しんで接することができた」

・「ボランティアとして活動していく中で、こうした方がいいのでは？と思うようなことがあったら、自分から提案したり、自分なりに工夫をしたりするなど、その時々のできる範囲でできたらと思う」



配布資料を組んでいる様子

当日配布するパンフレットや各企業のチラシ、抽選会の案内などを順番に組み合わせて、袋詰めをしました。高校生と一緒に、3000セット以上を準備しました。



ボールラックの組み立て

選手がウォーミングアップ等に使うボールのラックを組み立てました。側面の板には、Bリーグの公式ロゴが入っています。



ボールラックの組み立て

選手がウォーミングアップ等に使うボールのラックを組み立てました。側面の板には、Bリーグの公式ロゴが入っています。



スポンサー企業の看板を設置している様子

コートでウォーミングアップをしている選手のすぐ側で看板を設置しました。



抽選会ブースの様子

当選された方に景品をお渡ししました。子どもたちと一緒に番号を探したり、特賞に当選した方を祝福したりと、楽しく活動していました。

2018-2019 B2リーグ 第1節

東京八王子ビートルズ VS アースフレンズ東京Z

63

15-1Q-24
11-2Q-26
21-3Q-16
16-4Q-21

87



「東京八王子ビートルズ」の開幕戦は、B2リーグでの記念すべき初戦でしたが、残念ながら勝利で飾ることはできませんでしたが、選手の気持ちのこもったプレーに、観客から大きな声援が送られていました。試合後も選手と写真を撮ったり、握手をしたりするために多くのファンが並んでおり、「東京八王子ビートルズ」への期待の高さが伺えました。